

新刊速報

復刻版

とう
冬

はく
柏

全26巻
別冊 1

『明星』終刊後、晩年の与謝野晶子・寛が最も力を入れた雑誌を復刻。
昭和期の晶子を詳しく知るための重要文献が数多く掲載されている。

雑誌『冬柏』は、昭和5年から昭和27年まで、与謝野晶子・寛が主宰した『明星』の後継誌である。
『冬柏』は昭和期の晶子・寛は勿論、その活動や動向の全てが集約されており、『明星』同様、晶子・寛研究にとり欠く事のできない重要な資料であったが、研究機関の所蔵が極めて限られており、研究が深められていない状況であるが、この度全号揃いでの復刻が可能になった。

この復刻版を刊行することにより閲覧可能な環境を増やすことができ、今まで欠落していた晶子・寛の昭和期の活動や業績、そして短歌史・広く文学研究の促進を確信する次第である。



復刻版『冬柏』概要

全26巻・別冊 1 (全7回配本)

A5判・上製・総約15,300頁

別冊=総目次・索引

揃定価=本体470,000円+税

第1回配本(第1~3巻・別冊1)

2017年10月刊行予定

本体56,000円+税

ISBN 978-4-8350-8123-6

予約受付中!

詳しくは下記までご連絡ください。

不二出版

〒113-0023 東京都文京区向丘1-2-12 Tel 03-3812-4433 Fax 03-3812-4464
<http://www.fujishuppan.co.jp> administrator@fujishuppan.co.jp

内容見本

304

色即是空 與謝野晶子

故人と同じ時に

B Rセエヌの水が流す灯も覗きぬべかり階上の窓(以下四首東京にて)
 十二人杯を上げ迎へしもともに四人は伊太利亞に行く
 巴里にてあてに更け行く夜の如し五つの車に十二人響く
 白きひる赤をば夜の色とする派手なる家に借れる椅子かな
 大木の樞より出でて山蔭の船原川に射すひかりかな(銀座より土肥へ)
 半島の山集りてかすめるを見つつわれ越ゆ船原峠
 押しこりて密林と云ふ趣きに續く天城の裾のむら山

10

村ある峠
 土肥峠山山を見るこの外の熱河の山もまほろしに見る
 風強し天城の西の連山が伊豆の中部を隔てる外
 裾山のいと厚きため歌かれぬ天城の外へ出でたりしこと
 春風や湯川蓬の色をして土肥を行くなり金山のもと
 金山を下り来る沈香の如く乾ける土盛りながら
 残りたる春のこちす伊豆に咲く木瓜も杏花もしどけなければ
 濱ちさが沙にも土肥の川潮にも緑を交せてなつかしきかな
 わが路の大洞峠石崩えて加茂の都へ越ゆるあたはず(以下四海岸にて)

冬柏

第壹號

| | |
|---------------------|--------------------|
| 伊豆詠草(與謝野晶子)……………二 | 山居雜詠(内山英保)……………四 |
| 熱海(石井柏亭)……………三 | 伊東にて(關戸信次)……………四 |
| 風霜集(木下圭太郎)……………六 | 窓に宵る(桑野信子)……………七 |
| 船人の歌(赤木毅)……………九 | 火の音(高田保馬)……………九 |
| 澄める陰影(新居格)……………二一 | 近冬小景(西田猪之輔)……………二二 |
| 西戸時に遊ぶ(白仁秋津)……………二六 | 寒ざくら(福田克子)……………二七 |
| 雑詠(尾崎學堂)……………三三 | 磯の雨(兼藤紀子)……………三五 |
| 吾子第三歳(江南文三)……………三五 | 鴨と波(菅沼宗四郎)……………三五 |
| 書齋の座(吉田精一)……………三六 | 幻覺と春(渡邊六郎)……………三五 |
| 都會人(茅野蕭々)……………三三 | 長兄を哭す(水木鹿)……………三五 |
| 寫と月と(平野萬里)……………三三 | 若き素描(熊坂清)……………三五 |
| 歌集ひろ野(與謝野寛)……………三三 | 途上(村上操)……………三五 |
| 夕の硝子(田中静六)……………三三 | 山陰より(三島祥道)……………三五 |
| 野の人(田澤榮子)……………三三 | 港の人(西薄明)……………三五 |
| 低き笛(掛員芳男)……………三三 | 心の散步(猪瀬植子)……………三五 |
| うす雲(前澤詢子)……………三三 | 新詩社詠草……………三三 |
| 「霧島の歌」(萬里)……………三三 | 沙上の草(與謝野寛)……………三三 |
| 春雪抄(平野萬里)……………三三 | 消息……………三三 |
| 雨中巡禮(小金井喜美子)……………三三 | 表紙(廣川松五郎)……………三三 |

刊行の辭

昨冬至の夕、與謝野晶子夫人の五十の賀筵が東京會館で催された時、席上徳富猪一郎先生の御挨拶があつた。それは極めて興味深いものであつたが、終りに先生は明星の休刊を遺憾とせられ、著者と讀者との間を永年結びつけて居た親しむべき絆をこの際何とかして繋ぐやう切に御奨めがあつた。先之新詩社の若い人々の間にも發装機關の必用が感ぜられてゐたので、於是相談一決して爾來準備を急ぎ、ここに本誌の刊行を見るに至つた。冬柏といふ名を與へたのもその縁によるのである。

明星の再興はもつと望ましいことだが、與謝野家の負擔を甚だ重からしめる虞があつて俄に出来にくい。冬柏はそこへ行く道程として一時之に代るものである。同人の僅少な資金を本として出すものであるからその體裁の如きも極めて貧しく明星に比し同日の談ではないが、無きには勝るであらう。とは言へ内容は殆ど全部同僚與謝野先生の手で整へられるものであるから、その點は明星に變りはない積りである。唯當分同人の一人として事務に當る小生の趣味が田舎びて好んで時代の後端を行く處から、御不満の方も多からうと思ふが、暫く御辛抱が願ひたい。その代り永續性はあらうかと思ふ。幸にして本誌が漸次生長し、經濟上に獨立し得る域に達したら即ち明星の名に復すると共に體裁も一變するのである。それ迄待つて頂きたい。(萬里)

◆配本予定

- 第1回配本(第1〜3巻・別冊1)
2017年10月刊行予定
揃定価56,000円+税
ISBN978-4-8350-8123-6
- 第2回配本(第4〜6巻)
2018年1月刊行予定
揃定価54,000円+税
ISBN978-4-8350-8128-1
- 第3回配本(第7〜10巻)
2018年6月刊行予定
揃定価72,000円+税
ISBN978-4-8350-8132-8
- 第4回配本(第11〜14巻)
2018年11月刊行予定
揃定価72,000円+税
ISBN978-4-8350-8137-3
- 第5回配本(第15〜18巻)
2019年4月刊行予定
揃定価72,000円+税
ISBN978-4-8350-8142-7
- 第6回配本(第19〜22巻)
2019年8月刊行予定
揃定価72,000円+税
ISBN978-4-8350-8147-2
- 第7回配本(第23〜26巻)
2020年1月刊行予定
揃定価72,000円+税
ISBN978-4-8350-8152-6